

神奈川県立子ども医療センターオレンジクラブ



## ボランティアニュース

206号 2020年12月号

発行 神奈川県立子ども医療センター オレンジクラブ事務局

編集責任者 ボランティアコーディネーター 加藤 悦典

〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4 Tel. 045-711-2351 (代表)

ホームページ <https://orangeclub.kcmcvolunteer.com>

ブログ <https://blog.kcmcvolunteer.com>

### コロナ禍のクリスマス

手芸グループ 川崎 明子

今年、2020年のクリスマスは誰も経験した事のないコロナ禍で迎える事になりました。予定通りならば行われるはずだったオリンピックやパラリンピック、様々なイベントで華やかな年になっていたことと思います。企業や個人の生活が厳しく制限される中、ボランティア活動も例外ではなく、いつもと同じように集まる事は中々できませんでした。いつもと同じ普通の毎日がどんなに幸せで有難い事だったのか身に染みて感じます。

手芸部の活動も今年のクリスマスのテーマ【スイーツ】は決まっていたのですが、本来なら定期的に集まって話し合いをしながら詳細をつめて作っていくところ、今年の中々集まる事ができなかったで、一人ひとりがテーマ【スイーツ】という軸から幅を広げて作っていく事になりました。アイデアを横に広げる人、縦に広げる人、斜め上に広げる人それぞれで、例年以上にバラエティに富んだ作品達が出来上がりました。そんなコロナ禍だからこそ出来た作品の代表格はやはりアマビエ様でしょうか。それぞれが思い思いのアマビエ様にコロナ収束の願いを込めて作りました。

手芸のボランティアに参加させていただいて3年、92歳の大先輩の作る温もり溢れる作品や熟練工の先輩方のクオリティの高い作品に刺激を受けつつ、喜んでくれる人を想像しながらひと針ひと針作っていく時間は至福の時です。

末筆ながら、たくさんの人の願いがこもったアマビエ様がコロナや疫病から皆さまを守って下さいますよう。



## 作品に心を込めて

手芸グループリーダー 谷内うらら

この1年間なかなか気持ちが落ち着きませんでしたね。私達の日常はどうなってしまうのだろう。でも、何とかしてクリスマスは飾りたい、飾れたらなーと。3回ほどしか集まりが出来ませんでしたけれど、私達があれこれ思いを巡らしながらおうち時間を楽しんで作品作りをしたように、皆さんにもほんの少しの時間だけでもリラックスしてほしいと思います。廊下飾りの額に入った作品とその周りの2点について説明します。最初の紹介は、「モラ」という作品。あまりにも素敵な手仕事の作品なので、友達に借りてきました。

〈モラ〉パナマの本土やサンプラス諸島のジャングルに住む先住民の女性の民族衣装の事です。何枚もの原色を重ねての総アップリケの手法です。(この作品は日本の先生が図案を起こしたものです。)

〈クロスステッチ〉ポット柄。これも友達の作品です。小さな×××の集まり、すごい！！です。古代ビザンチン時代(4世紀)のトルコが発祥とされ、その後イタリアからヨーロッパ全土に広がり世界各国で発展していきました。日本に伝わったのは明治の末頃と言われています。今年のクリスマスはいつもの年よりいっそうの心を込めて、来年は笑顔の2021年になりますように祈りを込めて。



## ぽぽんた通信 ⑳

こども医療センターの11月は全館クリスマスになる。

オレンジクラブの手芸部が毎年1年かけて企画、制作した作品でいっぱいだ。

総合待合の特大ツリー、病棟廊下のいくつもの小さなツリー、壁飾りは美しいし、とても楽しい。

今年目に付いたのは‘アマビエ’だ。疫病を鎮めるといわれている、半人半魚の日本の妖怪だとか、、、

新型コロナウイルス感染は拡大するばかり。第3波の流行が来ている。ぽぽんたの活動である。

本の貸し出しは3か月過ぎ、病棟の子ども達やお母様方にも喜んで頂いていると伺い、とても嬉しい。

だが、感染拡大を受け、12月と来年1月は本の貸し出しを一時的にストップする事にした。

ぽぽんた恒例の子ども達へのプレゼントは子ども達一人ひとりに、ではなく各病棟へのプレゼントにした。

60人の雪だるまたちが色々な本を紹介しているのだ。11月25日、クリスマスのひと月前だが、ぽぽんたのメンバーが各病棟の看護師さんや保育士さんに手渡した。来年2月から又本の貸し出しが出来ますように。‘アマビエ’さん 新型コロナウイルスの拡大を鎮めてください。 キクちゃん



## 「オレンジクラブの印鑑ができました。」

オレンジクラブ代表 三木美雪

オレンジクラブの皆さんに使っていただける、オレンジクラブニュースのマークにもなっている、ほほを仲良くよせている楽しいヨシタケシンスケさんのイラストのハンコを作りました。思わず「かわいい！」とだれもが笑顔になります。ハンコを作るきっかけは、ボランティアルームで、保育士さ



さんの小林さんと吉野さんが病棟の入院中のおこさんに、クリスマスプレゼント用のクリスマスカードを作っていた時の事です。カードは、ボランティアの皆さんのお力も借りて500枚準備中ですが、ともかく沢山の枚数があるので、「カードの裏にオレンジクラブのハンコがあるといいね、オレンジクラブのはんこあるかな？」と会話が始まりました。ボランティアコーディネーター加藤さんに伺ったところ、ハンコはあるのですが、何とも味気ないオレンジクラブ文字だけのハンコです。おこさんが受け取ったとき、楽しい気持ちになってもらえたらと思い、「ヨシタケシンスケさんのイラスト入りのハンコ作りましょう！」となりました。

私の近所の友人で、篆刻を35年間続けていらっしゃる小野明子さんが頭にうかびました。早速お電話をしてシンスケさんのイラストと、オレンジクラブの文字が入ったデザイン画を見ていただきました。ハンコの大きさも3.5cm位がいいのではとアドバイスもしていただきました。私がこども医療センターでボランティアをしているお話をして、オレンジクラブの皆さんの活動を紹介した冊子をお持ちしました。私からは、オレンジクラブより材料費も含めて制作費もお支払いしますと持ち掛けたのですが、私たちの活動にご賛同くださり、「是非ボランティアでオレンジクラブのハンコ彫らせてください。お役に立てるのであれば喜んで」とおっしゃってくださいました。シンスケさんのイラストの笑っている表情や目元、口元もかわいらしくなるよう慎重に石に刻んでくださいました。私達の手馴染む様押しやすいサイズの石も選んでくださいました。オレンジクラブのハンコではなく、立派なオレンジクラブ印鑑ができました。また赤いスタンプのインクもご寄付いただきました。小野さんありがとうございました。大切に使用させていただきます。オレンジクラブ皆さんもどうぞ自由にオレンジクラブの印鑑お使いください。早速作業グループの武澤さんが、お正月用の絵馬に使うとの事でご自宅に見本を持って帰られました。コロナ感染症の中での緊張しながらの活動となった2020年でしたが、どうか皆さんオレンジクラブの印鑑で、笑顔になってください。皆様に多くの幸せが訪れますようにお祈りいたします。

### 12月の活動

7日(月) 吊るしびな販売 (場所: 本館から管理棟への通路)

8日(火) ホスピタルクラウン(総合待合・クリーン)

17日(木) 作業

26日(土) 正月飾り

毎週火・金 重心作業 毎週火 園芸

毎週月～金 外来

第2・3水曜日 縫製

毎週月・水・金 11:00～14:00 患者図書

毎週火 総合待合 高野さんのピアノ演奏





## 「ありがとう ベイリー！」

患者図書室 高橋 奈緒美

10月1日、当センターの元ファシリティドッグのベイリーが天国へと旅立って逝きました。大好きなおやつを食べ、少し元気がないかな・・・そんな様子の中、相棒のアニーやハンドラーの森田さんに見守られる中、眠るように旅立って逝ったとのことでした。

ご存じの通り、ベイリーは2012年から2019年までの7年間、神奈川県立こども医療センターにファシリティドッグとしてハンドラーの森田さんと共に医療従事者として勤務していました。闘病中の子ども達や、そのご家族の方々に寄り添い、多くの方々に元気や勇気を与えてきた日本のファシリティドッグの先駆者として、マスコミにも大きく取り上げられ、子ども達やご家族の方々だけではなく、こども医療センターのスタッフや沢山の人々を笑顔にしてくれました。

ファシリティドッグを引退した後は、センターのボランティア団体である「オレンジクラブ」の会員となり、読書犬として活動し、沢山の子ども達が、ベイリーに会いに本の読み聞かせに訪れてくれました。「ぼくね、本を読むのも好きだけど、ベイリーが大好きで会いにきたんだ(\*^-^\*)」と、話をしてくれた男の子や、ベイリーの様子を伺いながら本読みを進める子。お母さんが読み聞かせをしている中、ずっとベイリーの顔をのぞき込んでいた子・・・訪れた子ども達が、ベイリーとの貴重な時間を大事に過ごしている様子は、とても優しい温かい時間を感じました。嬉しくて興奮した男の子の足が当たったり、大きな声を出されても、決してベイリーは吠えたり嫌がる様子を見せることはありませんでした。常に優しく子ども達に寄り添ってる姿は、「寄り添い」という本当の姿を学ばせてもらった気がします。

そんなベイリーへの感謝の思いを伝えたく、「ありがとう、ベイリー☆多」と題し、回顧展を開催いたしました。子ども達やご家族、病院関係者の方々からのメッセージや小さい頃から最近までのベイリーの写真も展示され、多くの方々が足を止め、ベイリーを思い出してくれているようでした。メッセージには「ベイリー、ありがとね。ベイリーがいたから嫌な注射も我慢できたよ」「ベイリー、お疲れ様。ベイリーのおかげで入院生活が楽しかった。ゆっくり休んでね」「ベイリーのおかげで不安な気持ちが吹き飛びました。ありがとうね」・・・など、400枚近くの温かいメッセージが寄せられ、1枚1枚に子ども達やご家族の方々の想いが丁寧に書かれており、ベイリーの成し遂げた足跡や存在の大きさを改めて感じました。

ファシリティドッグのトップランナーとして常に走り続けてきたベイリー、天国で沢山ののおやつを食べ、沢山遊んで、ゆっくり休んでね。そしてみんなの事を見守っててください(\*^-^\*)

「ありがとう、ベイリー！」

